

[成果情報名] 河床の石起こしによるアユ釣獲の改善

[要約] アユ漁場における石起こしの効果を把握するため、石起こしの有無で釣獲状況を比較したところ、石起こしで釣獲改善できる可能性が示唆された。

[部署] 山形県内水面水産試験場・資源調査部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 研

[キーワード] アユ、釣獲、石起こし、漁場改善

[背景・ねらい]

釣獲が良好なアユ漁場では長径 25cm 以上の石が多い傾向が明らかになっている(阿部, 2014)。最上漁協が真室川新橋付近のアユ漁場で石起こしによる釣獲改善を試みており、その効果を把握するため遊漁者の釣獲数について調査を実施した。

[成果の内容・特徴]

- 1 川底のサイズ組成を、石起こし前の平成 29 年 6 月 16 日に、実施区 1, 2(図 1)において阿部(2014)の方法で調査した。6 月 17 日に実施区 1, 2(約 3, 000 m²)で、漁協組合員 10 名と内水試験員 3 名がバールによる石起こしで、長径 25cm 以上の沈み石を浮石・載り石の状態にした。その後川底のサイズ組成を 7 月 21 日と 11 月 15 日に、実施区 1, 2 および未実施区 1, 2 で調査した(図 1)。
- 2 釣獲状況の調査では 7 月 1 日と 8 月 19 日に、実施区 1, 2 と未実施区 1, 2 で、各区の遊漁者を約 1 時間観察し、アユの釣獲数を計数した。
- 3 石起こし前の実施区 1, 2 では、長径 25cm 以上の石の割合が 20.0~26.7%であり(図 1)、阿部(2014)の基準で不振漁場、または不振漁場と良好漁場の中間の値だった。石起こし後 7 月 21 日に実施区 1, 2 では、30.7~37.3%に増加し、石起こしにより良好漁場の値となった。一方、未実施区 1, 2 では、石起こし前の実施区と同様 20.0~21.3%と低く、不振漁場の値だった。11 月 15 日には実施区、未実施区とも長径 25cm 以上の石の割合が増加し、良好漁場の値になったが、これは 7 月 23 日の増水の影響と考えられた。
- 4 7 月 1 日の釣獲数は実施区の方が隣接する未実施区より約 1.5 倍多い傾向があり、石起こしによる釣獲改善の可能性が示唆された(表 1)。8 月 19 日には未実施区 1 の方で 1 人 1 時間当たりの釣獲数(CPUE)が多い結果となったが、これは増水により未実施区 1 でも良好漁場になったためと考えられた(図 1、表 2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 増水により川底が変化した場合や、釣獲によりアユが減少した場合、石起こしの効果を正確に把握できない可能性がある。そのため石起こしは解禁になるべく近い時期に行い、効果把握の釣獲状況調査は、解禁後早い時期に実施することが望ましい。
- 2 現時点では石起こしの効果を評価するにはデータが十分とは言えない。調査を積み重ねて比較検討する必要がある。

[具体的なデータ]

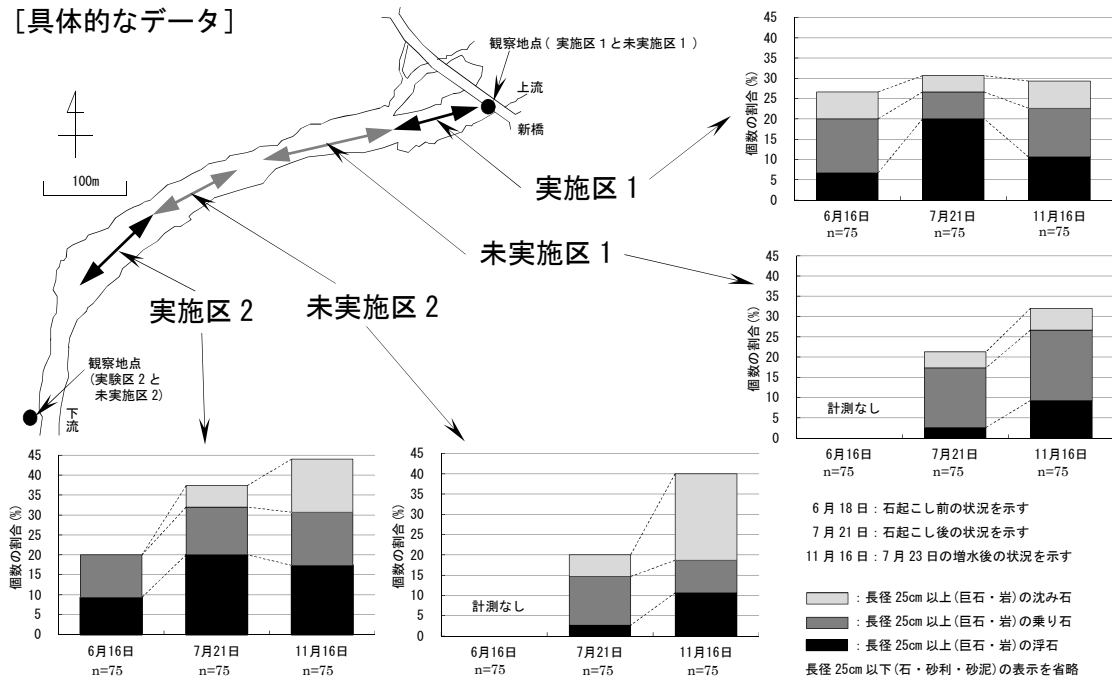


図1 真室川新橋付近の釣獲状況調査区と各区における河床のサイズ組成の推移

表1 平成 29 年 7 月 1 日における真室川の各区域におけるアユ釣獲状況

	実施区 1	未実施区 1	実施区 2	未実施区 2
観察時間	9:15 ~ 11:00		13:40 ~ 15:00	
釣り人数	3.9	5.2	3.0	2.7
CPUE (尾/人/時間)	6.1	4.0	4.2	2.5

表2 平成 29 年 8 月 19 日における真室川の各調査区におけるアユ釣獲状況

	実施区 1	未実施区 1	実施区 2	未実施区 2
観察時間	10:55 ~ 12:00			
釣り人数	2.1	2.0	釣り人不在のため 実施できず	
CPUE(尾/人/時間)	2.9	7.5		

[その他]

研究課題名：アユ友釣り漁場に適する河川環境の解明

予算区分：県単

研究期間：平成 29 年(平成 29 年)

研究担当者：荒木康男

発表論文等：なし